



安永己亥歳旦

竺紫風羅堂講中

肥前田代

之ッ物

幽篁舎

初平や柳も霞式のもやると
蛙水

多れやよむもの 佐藤 楓江

お百文に最入日士よとて 系十

聖節

のんととひかりとて 初日 迎月

大ぬくや歌述もよみては一味 代雅

袋くくぬもててーら 糸 帛陽

蓮葉やえつらとらに雲の色 楓江

善哉ううよの亭とれ花のさ 有節

引もてーやもよむやまげら 菊二

友方棚や嵐のなもあつたやう 里翠

かけ網やほきよとやとに 柳之

遠うれ孫とあやうれがし 史扇

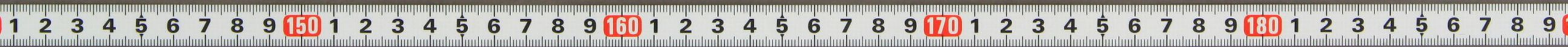
枝村もよよあしてよ初らん 朱雁

あゝうふ日の味もやふ新茶 杜川

笑ひ折くはとていふもよ 浦夕

銭も初るねれよふのやがさう 二松

あゝやうもあつたやう 素十
九僊下



成
手細

位一れ者所侍奉の均整
其の要心よりけりけり
平しは明正暗の起り
くれしに

幸くかひて解衣細ましくはたせ 九仙下

牛の採集之處一舌の白 冬年之

面心へまこ名の親又事にて 註也

たつて普請もたらふあし 舟功

其の月心とほく氣の持むい 帝親

頃世れ中の秋ハ馬 杜川

角力ハ是の立ぬし 迎月

吾の心は并れ法飯 史扇

ぬむ字を止よと難のまはし 五節

鏡の心まくり初 朱厂

之こそ七あそびも只むのま 了夏

百よ明れ者れこのく 枕

女言心中雲

久通

邪心とわれ 改心約まや 一珠樓
危江

柳今ふくくわれ 鳥雲舎
丈推
入江の千々々

橋治梓